

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 6 月 30 日

評価対象事業	こども - 02	子育て支援事業	☐ 法定受託事務
所管課	こどもみらい部	こどもみらい課	評価者
一般	会計	款	15
項	10	目	5
総合計画上の位置付け	分野名	子育て	施策の方針名
			子育て家庭への支援

1 事業の目的

対象	子育て家庭等	意図	子育てに関する多様なサービスや情報を提供し、子育てニーズに対応するため。
効果	子育て中の市民が子育てを楽しみながらできる環境整備を行う。		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業 （事業終了予定年度： 年度） ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	冒険遊び場事業の実施、出産子育てに係る経済的支援の実施、かまくらこども相談窓口きらきら（かまくら子育てメディアスポットを含む）の運営	冒険遊び場事業の実施、出産子育てに係る経済的支援の実施、かまくらこども相談窓口きらきら（かまくら子育てメディアスポットを含む）の運営	冒険遊び場事業の実施、出産子育てに係る経済的支援の実施、かまくらこども相談窓口きらきら（かまくら子育てメディアスポットを含む）の運営
予算額（千円）	130,693	133,803	
国県支出金	97,469	116,341	
地方債			
その他			
一般財源	33,224	17,462	0
当初人員配置数	8.8	8.5	0.0
人件費（千円）	34,336	33,183	0
事業実績	協働事業者との冒険遊び場事業の実施、在宅の子育て家庭などに利用料の一部助成を実施、妊娠から出産・子育て期まで伴走型の相談支援及び経済的支援を実施、かまくらこども相談窓口きらきら（かまくら子育てメディアスポットを含む）の運営、市内の子育て支援団体への補助金交付、子育て支援情報ポータルサイトの開設準備		
決算額（千円）	85,273		
国県支出金	76,100		
地方債			
その他			
一般財源	9,173	0	0
人員配置実績数	8.8	0.0	0.0
人件費（千円）	33,549	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
						（上段実績、下段経費（千円））		
活1	指標名	冒険遊び場の実施回数	回	219	⇒	243		
	実績につながる活動	子どもたちがのびのびと自由に遊べる常設の遊び場を運営するための負担金を支出した。				13,915		
活2	指標名	利用料助成件数	件	360	↗	312		
	実績につながる活動	子育て世帯の経済的負担を軽減することで、子育て家庭への支援に寄与した。				2,834		
活3	指標名	子育て支援団体登録数	団体	75	↗	75		
	実績につながる活動	子育て家庭への情報提供等を行うことで子育て支援の充実を図った。				9,179		
活4	指標名	市内の子育て支援団体への補助金交付団体数	団体	1	⇒	1		
	実績につながる活動	活動費の一部を補助することにより、子どもの健全な育成と子育て支援の活性化を図った。				200		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	・活動結果指標の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	冒険遊び場事業については、こどもの居場所づくりが課題としてクローズアップされている中で、今後需要がより高くなることが予想されるため、居場所づくりに関する取組を継続していく必要がある。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結 果指標No （最大3つ）
					実績			
成1	かまくら冒険遊び場の利用者満足度	%	未実施	↗	未実施			1
成2	かまくら冒険遊び場来所者数	人	10,279	↗	9,546			1

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	人口減少：出生数及びこどもの数の減少
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	出生数の減少に伴い対象年齢の人口が減っているため、かまくら冒険遊び場・梶原の参加者数は減少傾向だが、今後利用者満足度を調査していくことで、内容面でのニーズに応えられるよう、事業をブラッシュアップしていく。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	地域の町内会館を活用した出張冒険遊び場を新たに開催したことで、出張冒険遊び場単体では利用者数の増加が見られたが、これは事業を行った成果である。利用者の個人情報には徴取していないが、顔ぶれや利用の様子からリピート利用者も多く見られるため、利用者満足度も高いことが推測される。

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	■ 増えている	□ 変わらない	□ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	■ 市	□ 国・県	□ 民間事業者 □ なし
	有効性	事業の成果	□ 十分にしている	■ 概ね出ている	□ 出していない
	効率性	事業費削減余地	□ ある	■ なし	
		関連・類似事業との統合	□ できる	■ できない	
公平性	受益者負担	■ 導入済 (在宅子育て家庭支援事業)	□ 導入予定	■ 導入できない (在宅子育て家庭支援事業以外)	
方向性	評価実施年度の方角性 ⇒		評価実施翌年度以降の方角性		
	事業内容の方角性	☐ 事業内容は現状通り ☒ 事業内容は見直し済 ☐ 事業を休止又は廃止済 ☐ 他事業と統合済	⇒	☐ ① 事業内容は現状通りとする ☒ ② 事業内容は見直す → ☒ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他 ☐ ③ 事業は休止又は廃止する ☐ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する → 事業へ統合	
	予算規模の方角性	☒ 予算規模は現状維持 ☐ 予算規模は拡大済 ☐ 予算規模を縮小済	⇒	☒ ① 予算規模は現状維持とする ☐ ② 予算規模は拡大する ☐ ③ 予算規模は縮小する	
今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応		結果	具体的な内容	
	前年度の新たな課題への対応結果		解決	梶原以外の地域での出張冒険遊び場の実施回数を増加することにより、機会の拡充を図った。	
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題		新たな課題あり	従来の出張冒険遊び場の実施回数を増加させたほか、地域の町内会館を活用した出張冒険遊び場を新たに開催したことで、利用者数の増加が見られたが、開催に当たっては見守り人員の人材確保や人件費等の措置が必要となるため、地域とも連携しながら持続可能な体制づくりを検討する必要がある。	
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性		新規事業の必要性あり	持続可能な居場所の提供体制を確立する必要がある。	
	総評	冒険遊び場事業については、こどもの居場所づくりが課題としてクローズアップされている中で、今後需要がより高くなることが予想されるため、出張冒険遊び場等、居場所づくりに関する取組について持続可能な体制を構築し、継続していく必要がある。在宅子育て家庭支援事業においては、子育て世帯がより利用しやすい制度となるよう、現行制度のあり方について継続して検討する。			
		上位施策への寄与度 A			

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項	プレイパーク事業（冒険遊び場）実施状況								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	横須賀市	逗子市	三浦市			
他市実績	○	○	○	×	○	○			

比較事項	ファミリーサポートセンター利用助成事業実施状況								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	○	×	○	×	○			○	

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	他自治体における事業実施状況にはバラつきがあり、手法も市町村により様々であるため、今後も他自治体の実施状況や実施手法を参考とし、本市の実情に即した事業実施を検討していく必要がある。
----------------------	--